



鎌ヶ谷市議会議員  
都市・市民生活常任委員会  
会派 政友会

はら はちろう  
原 八郎

原八郎後援会事務局 政策論議をしませんか。お気軽にご相談ください。

鎌ヶ谷市道野辺本町1-1 1-8 ☎445-3466

HP [原八郎](#)

検索

今月号の項目

一、九月定例議会

議案二一件、全て可決  
陳情五件中四件不採択、一件継続  
平成二十九年年度決算案 承認

二、九月議会一般質問

①市長の五期目のビジョンは？

②初富交差点の歩道整備について  
木下街道と風間街道の分離地点  
の東鎌ヶ谷方面への右折する市  
道の整備事業

三、保育休暇手当支給、三歳児まで

月額十万〜十五万円  
待機児童と少子化問題も解決  
保育士の不足も解消

四、原八郎のルーツ「歩」四〇回  
勉強をしない劣等生

一、九月定例議会

九月議会、問題なく全て終了。

二、九月議会一般質問

①市長の五期目のビジョンは？

五期目のビジョンはどのようなものを期待したらよいのでしょうか。優先順位は、市民要望の強いものから実施するのか、安全を確保するために危険を予防するものを

優先させるのか、五年後、十年後の鎌ヶ谷のどんな社会を想像し、実現するための事業を実施しますか。

(答へ) 三つの課題に取り組む

- 一、未来に向けてさらなる発展につながる街づくり
- 二、すべての市民が暮らしやすさを実感できる街
- 三、産業が盛んで文化・スポーツ・緑を楽しめる街

具体化されることを楽しみに！

②交差点周辺の歩道整備事業

初富交差点の北側左の五十メートルほどの歩道の整備。東武鉄道の未利用地を利用して歩道を作る。実現する可能性大です。懸案事項であった。

木下街道と風間街道の分岐点、東鎌ヶ谷方面へ右折する道。出てくる車があると、右折できず交差点の真ん中で停車すると木下街道が大仏駅まで渋滞する。地元住民は、その為、直進し、コンビニの駐車場を右折して、理髪店の駐車場を左折して東鎌ヶ谷方面に行くことになる。民有地を利用するしか解決の方法がないということは、行政として、どう考えるのか？

(答へ) 近々解決の見通しが出てきました。

③市から交付される書類の文言に  
不適當な言葉があると指摘

難病患者助成金支給決定通知書、生活保護の支給決定書、障がい者手帳申請書に対する決定通知書等の送付書類の中に、法律用語ではあるのだが、審査請求に関する文章で、対象者を傷つける文言が、十一箇所もある。それは「処分」の文言です。前半の文章だけ記します。

教示 この処分に不服があるときは、この処分があったことを知った日の翌日から起算して三ヶ月以内に、鎌ヶ谷市長に対して

審査請求をすることが出来ます。(なを、この処分があったことを知った日の翌日から起算して三ヶ月以内であつてもこの処分のひ……)

処分の文言が十一箇所も出てきます。障がい者に突如なつてしまった人にとって、これからのように生きていったらいいのかと、途方に暮れている状態で、あなたは障がい者として処分されましたと受け止められる、この文章は余りにもきついい言葉ではないか。再考を願う。

(答へ) 特に配慮が必要な方へ、これからは担当課で十分に丁寧な説明を行う。

本通知は、申請どおりの決定になります。ここに記載している教示文については、あくまで却下等を通ずる場合の救済措置を記載しているものになります。との説明書きを加えることを検討する。

これからは、心優しい行政に配慮することです。

三、乳幼児の待機児童対策提言

将来の危機的人口減少を食い止める為に保育休暇制度の改革をすべきです。

(私の主張)

乳幼児の三歳までの保育が人格形成に最も大切であることから、三歳児まで保育園でなく、保護者が育てるべきであり、この時期が一番愛情が必要なのです。

三歳までにしか発達しない脳細胞があります。それが眼窩前頭皮質です。

誕生時の脳の重さは、平均五〇〇g、成人二〇歳で最高一五〇〇gです。三歳までに、なんと一二〇〇gまで成長するのです。特に眼窩前頭皮質は愛情豊かな環境で育てられることが必要不可欠なのです。

物事の判断や、感情のコントロール、物事への解決対応をする脳細胞の前頭葉へ情報を送る役割が眼窩前頭皮質なのです。三歳までの子育ては大切にしなければなりません。

はら

はちろう

原 八郎

鎌ヶ谷市議会議員  
都市・市民生活常任委員会  
会派 政友会

原八郎後援会事務局 政策論議をしませんか。お気軽にご相談ください。

鎌ヶ谷市道野辺本町1-1 1-8 ☎445-3466

HP

原八郎

検索



せん。預けて愛情が充分満たされるでしょうか。

未発達のまま成長すると感情のコントロールや対人との対応の仕方もうまくいかず、暴力的になったり、閉じこもりになったり、他人との交わりが苦手となってしまいます。いわゆる不良少年問題です。少年院の調査では、入所者の子供の幼少期の愛情不足が顕著に表れています。

そこで提案いたします。国が企業に三年間の育児休暇と復職を義務付ける法律を作るのです。

保育休暇手当を月額十万〜十五万円支給します。財源は保育園に運営費として自治体が補助している運営費を当てます。運営費補助は園児一人当たり年間百五十万円程です。〇歳から三歳児未満一人当たり、一五〇万円程の助成金です。この金額を保育休暇手当に回せば充分足りります。

経済的理由で共働きしている夫婦で心に余裕がない状態で、子供のことや家計や家事等のトラブルが原因で離婚してしまうケースが最近大変増えています。これが貧困家庭問題の原因です。

保育休暇を取り、保育休暇手当を支給されることで大きく解決に向かうはずですが、心に余裕ができません。二人目、三人目を産もうと思うようになり、少子化問題も改善します。

十年後、二十年後の日本はどうなっているでしょう。少子高齢化が進み、人口減少が激しく一億人を切り、労働生産人が極端に減少してしまいます。五十年後には人口は七千万人迄減ってしまうとの予測です。深刻な社会問題です。

その為にも保育休暇制度を改善し、二人、三人と子供を育てられる環境を国の予算を掛けても整えるべきなのです。

ここで、母子手帳の副読本のことに触れます。戦後の食糧不足の時期、米国から援助を頂き、生き延びてきました。栄養不足

で母乳が不足し、乳幼児の成長不足が問題となり、昭和二十年代中頃から粉ミルクが入ってきました。当時は母乳よりミルクの方が栄養価が高いと宣伝され、普及いたしました。米国がミルクの輸出増加を狙ったのか、「母乳よりミルクの方が子育てにいいよ」との情報により、厚生省も母子手帳の副読本に「おんぶ・だっこ・添い寝・おっぱいは、ほどほどに」の文章が掲載されました。

その後、二〇〇一年にユニセフが子供白書で「子育てには添い寝・おんぶ・抱っこ・おっぱいは大切ですよ」との発表から、二〇〇四年より副読本の記述が改まり現在の副読本となっています。五〇年を超える長い間、間違った子育てが推奨されてきたわけです。スキンシップの不足により温かいぬくもりのある心が不足し、様々な問題が起きてきました。

愛情豊かな大人に育てられる子供達は幸せです。子育てを他人に預けるのではなく三歳までは、親が愛情豊かに育てることを、もう一度考えてみませんか。

「歩み」原八郎のルーツ

第四〇回

「勉強をしない劣等生」

小学生のころ全く勉強をせずに遊んでばかりいた。十一人兄弟で、兄が七人姉が二人、妹が一人です。

兄達が喧嘩すると、負けた方が、腹いせに下の者にあたります。

一〇番目の私まで来て、妹に当たると、未っ子というのは両親にとっては、特に可愛いのでしょね。私が両親から怒られます。ですから、兄達にトラブルが起きたら、私は逃げることを優先し、家から離れます。

家の近くで遊んでいると兄達に見つかり、家に帰れと怒られます。

昭和二〇年代の初めの頃、戦後の厳しい時代です。兄達のお下がりの古い着物を着ていましたから、汚い姿を他人に見られたくなかったでしょう。その為、私は小さい時から兄の目を避けて、家から離れて遊ぶようになりました。

子供の遊ぶ場所の距離が年齢により、家を中心に、年を重ねるごとに離れていきます。私は兄達から離れるため、小さい時から、遠くで遊んでいたわけですね。

夕方、遊び疲れて家に帰り、夕食を済ませると、眠くなり、宿題を忘れて寝てしまうことが度々ありました。勉強する時間がありませんので、成績が良いはずがありません。

兄貴や姉達はみな優等生で、卒業式には表彰されてきました。私だけが劣等生でした。その為「お前は馬鹿だ」が私の代名詞のようになっていました。勉強しなければいけないと自覚したのは中学一年の時です。人生に大変影響を与えてくれた素晴らしい先生との出会いに恵まれたことがきっかけでした。

理科の先生で「ミミズと亀」の話をしてくれました。教室に先生が、ビーカーを持ってきて、教台の上に置き、「皆、少し考えてくれ。」に「ミミズと亀が居ると思ってくれ。ミミズをビーカーの中に入れる。亀を横に置く。亀はどうするだろうか。」三分ほどして、先生が、「亀は好物のミミズを食べることが出来たろうか。食べられないよな。皆ならどうする。・・・」上からとればミミズを捕まえられるよな。亀は二次元の世界だよ。亀には上下という概念はないんだよ。皆は三次元の世界に生きてるんだ。では、なぜ、勉強をするかだ。沢山の知識を得て、沢山の経験を積んで、賢くなるためなんだよ。その為の勉強だよ。」とのことでした。

なぜ勉強をしなければならぬかが理解でき、自ら勉強をするようになり中学三年間で、兄達に追いついた。

なぜ勉強が必要なのかを自覚し、勉強をすることが楽しくなった